

2022年度 事業報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

2022年度は、前年度からのコロナ禍がなおも続く状況でしたが、オンラインで繋がるなどの新しい様式にも理解・経験が進み、そうした状況を活かす手法も含め、財団としての事業活動を展開することができました。とくに子ども科学教育関係では小中学校の先生向けに、ソニー科学教育研究会と共に、これまでにない形態の研修会を開催し、幼児教育関係では「科学する心を育てる」論文事業20周年記念事業をオンラインで実施することが出来ました。また、ものづくり関係では、ソニー音楽財団やソニー社員等の協力も仰ぎ、オリジナルゲーム機や楽器を作る教室をトライアル開催することも出来ました。

【公1】 科学教育を中心とし、幼児および児童生徒の豊かな人間性の確立と創造性の育成を目指す事業

1. 幼児教育

(1) 「幼児教育支援プログラム」 (保育実践論文)

2002年度に51園の応募からスタートした保育実践論文は、2022年度に20周年を迎えました。後述の記念事業等の影響もあり、前年より7園多い162園の応募があり、20周年に花を添える、過去最多応募数を更新することができました。応募園の特徴としては、時世を反映してか公立の園が減少し、私立の園が74% (前年69%) を超えました。また、一昨年より始めた個人会員組織「乳幼児のための科学する心ネットワーク」を通じた普及活動等の成果か、新規応募園が76園と全体の50%近くを占める結果となりました (前年約40%)。実践事例の内容としては、コロナの影響が少なくなり外遊びが増えたからか、泥や土、水や泡などの外遊びの様子や、光、雨などの自然現象が前年より増えています。さらには、0,1,2歳児のみを預かる園からの応募も増加しています。論文審査 (選考) においては、最上位候補園の現地訪問による調査を復活させ、保育の様子や園の考え方などをしっかりと見聞きすることができました。結果、最優秀園には「白梅学園大学附属白梅幼稚園 / 東京都」と「奈良市立伏見こども園 / 奈良県」が選ばれました。なお、「科学する心を育てる」のテーマで特にユニークな論文に与えられる「審査員特別賞」は、該当なしとなりました。

(2) 「科学する心を育てる」20周年記念事業

「科学する心を育てる」論文事業の20周年を記念し、オンラインセミナーと記念事例集の発刊を行いました。オンラインセミナーは、「科学する心を育てるってなんだろう？」をテーマに、Zoom参加するみなさんと一緒に改めて考えてみよう企画したもので、審査委員長の小泉英明先生、委員の秋田喜代美先生、同 大豆生田啓友先生の3名の先生と、実際に論文を書かれた園の先生にもご協力をいただき、各2時間のイベントを3回実施しました。いずれの回も申込が200名を超え、アンケートの結果からも9割以上に満足の回答があり、大きな反響がありました。また、過去20年作り続けている『実践事例集』を振り返る企画を含んだ特別号も制作しました。「科学する心を育てるってなんだろう？」オンラインイベントの様子は、特設サイトからアーカイブ動画としてご覧いただくことができます。この動画を園内研修に利用したいという声があり、年度が変わっても掲載継続の予定です。

■ ソニー幼児教育支援プログラム 20周年記念「科学する心を育てるってなんだろう？」

<https://www.sony-ef.or.jp/preschool20.html>

(3) 入選園による実践研究/提案発表会の開催

2022年度最優秀園による実践研究発表会は、9月7日(水)に「京都市立明德幼稚園(京都府)」と11月19日(土)に「愛の園ふちのべこども園(神奈川県)」、審査委員特別賞による研究会は1月13日(金)に「いぶき幼稚園(兵庫県)」において、集合+オンラインの「ハイブリッド形式」で開催いたしました。コロナの影響も

まだ残る時期で、園に集まる保育者の人数には制限をかけたが、実際に公開保育をみていただき、先生同士の交流の場をしっかりと持ていただくことができました。また、いずれもオンラインには 100 端末数以上が参加し、園内研修として 1 端末から複数の先生が園から参加していただくケースも多くみられました。

さらに初の試みとして、優秀園を受賞された 11 園のうち、希望された 3 園が合同で行う「オンライン提案研究会」を開催しました。宮城県、岡山県、宮崎県と遠く離れた、まったく面識のなかった園の先生方が、研究会のテーマや発表内容等について定期的にオンラインで相談し合い、「科学する心」について学びを深めていきました。当日はオンラインで参加された多くの園に、「科学する心」の保育の素晴らしさを伝えてくれました。

2. 子ども科学教育

(1) 「子ども科学教育プログラム」 (教育実践論文/教育実践計画)

従来から募集してきた「教育実践論文」については応募数が 101 校となり、残念ながら、2021 年度から 60 校減少しました。新型コロナの影響で理科・生活科の実験・観察などの授業実践事例が大幅に減少し、また募集期間は第 7 波のピーク期であったことも影響したと考えられます。一方で、募集対象教科を「理科・生活科」から「全教科」にしたことにより、多彩な論文が寄せられ質の向上につながりました。審査委員による厳正な審査の結果、最優秀校には富士見町立富士見中学校（長野県）と横浜市立白幡小学校（神奈川県）がそれぞれ選ばれました。そのほか、優秀校として 10 校、奨励校に 40 校が選定されました。

また、2 年目となる教員個人を対象とした「教育実践計画」には、全国から 32 名の先生方から応募いただきました。こちらも前年度から 12 名の減少となりましたが、内容の多様性・斬新性が進み、新たな教科の提案や複数教科や地域活動との連携・ウェルビーイングなど 今そしてこれからの教育課題を反映した内容になってきました。厳正な審査の結果、前年の倍となる 10 名の方が入選に選ばれ、計画を実行するための助成を行っています。

(2) 最優秀校による「子ども科学教育研究全国大会」の開催

2021 年度最優秀賞受賞校による「子ども科学教育研究全国大会」は、2022 年 11 月 4 日に刈谷市立朝日中学校（愛知県）において、2022 年 11 月 25 日には横浜市立立野小学校（神奈川県）においてそれぞれ開催しました。徹底した感染症対策のもと 3 年ぶりの現地開催となりましたが、両校とも数多くの授業を公開し、子どもたちが主体性を持って学ぶ姿が見られました。また、子どもたちと講師の対話会や、複数講師によるパネルディスカッションなどの新たな試みを交えながら、参加された先生方の学びと交流の機会とすることができました。

【公 2】 科学教育を中心として豊かな人間性の確立と創造性の育成を目指す児童生徒対象の体験活動事業

1. 科学の泉－子ども夢教室

ノーベル化学賞を受賞された白川英樹博士が塾長の「科学の泉」は、2022 年度も開催見送りとなりました。一方、卒業生の「交流会」は初めてオンラインで開催し、約 80 名が白川先生の講演「創造力や独創性を育む」を拝聴した後、同期内での交流、興味や関心と同じくするチームに分かれ、約 4 時間の交流を行いました（科学、化学、医学、生物、語学などのグループ）。オンラインという特性を生かし、海外や遠方からも気軽に参加できたことは、今後の同窓会の在り方を検討していく上でも貴重なトライアルとなりました。全ての企画は大学生・高校生の卒業生が手掛け、近況報告を冊子にまとめた「いずみのつながり」も 2023 年 5 月上旬に発行して、誌面交流を行いました。

2. ソニーものづくり教室

ソニーのエンジニアやサポーターによって子どもたちにもものづくりの楽しさを伝え、「科学する心」を育みながら、「科学が好きな子ども」を育てるプログラムです。対面・オンラインを組み合わせ、複数の拠点を繋ぐ教室も開催して、参加者を増やすことができました。

(1) 事業所でのものづくり教室

2021年度は9回に留まった開催数は24回へ大幅に増加し、700名以上の子どもたちが参加しました。

●事業所でのものづくり教室（対面）

ソニーの東北地方の事業所で7回、九州地方の事業所で7回、東京地区で4回など、各地の事業所でICレコーダーや紙コップスピーカー工作教室を実施し、合計24回、587名の子ども達が参加しました。それぞれが得意とするワークショップがあるので、事業所間でノウハウ、ベストプラクティスの共有も行い、より子どもたちが楽しめるような工夫も加えています。

●CurioStep Summer Challenge（オンライン・ハイブリッド）

小学生60名が参加し、紙コップスピーカーの工作に挑戦しました。プログラムを改変し、失敗体験のプロセスを盛り込むことで、子ども自身の力で「なぜだろう、どうしてだろう」と考えを深めるような工程を入れて実施しました。ホルマル線を紙やすりで磨かない状態では電気が流れず、音も出ないことに着目させることで、音が聞こえる仕組みを学ぶことができました。

●Inclusion Workshop（対面）

「障がいのあるなしに関わらず、共に学ぶ」ことを目的として、ソニーグループ本社と協賛し、80組の親子が参加しました。ソニー・太陽株式会社（特例子会社）の講師がペットボトル、磁石、牛乳パックなどを使ったヘッドフォン作りを指導しました。音の原理を学ぶ座学では異なる周波数を流して、高周波数の音は子どもには聞こえても、大人には難しいということがわかり、会場が盛り上がりました。また、完成した作品にデコレーションを施し、Arts（芸術）の要素も入れたプログラム構成にしました。参加者の中には、障がいがあるお子さんも含まれており、保護者からは「通常のイベントに参加するのは躊躇するが、安心して子どもが取り組んでいた」「ソニーが教育に力を入れていることがわかった」というように、ポジティブな声が寄せられました。

（2）高校生のエンジニア体験「aiboが高校にやってくる！」（オンライン）

公募で選ばれた6校24名の生徒が「自立型エンタテインメントロボット“aibo”」を使い、ソニー社員からオンラインで助言を受けながらアプリケーションを企画制作することを通じて、商品開発プロセスを体験しました。実用可能と認められた、愛知工業大学名電高等学校の成果物である“aiboard”というアプリケーションは1年間の予定で一般公開されています。これは、aiboとすごろくを楽しみながらミッションをクリアすると、aiboからオリジナルフォト付きのメッセージカードが届くという、高校生ならではのユニークなアイデアをきっかけに生まれました。aibo開発チームによる「aibo連携アプリセミナー」も公開されています。

<https://www.youtube.com/watch?v=dkR-GFO4Txw>

（3）学校向けのものづくり教室（ゲーム機をつくる、楽器をつくる）

福島県三河台小学校において、オリジナルのゲーム機、楽器を作るものづくり教室をトライアルで実施し、15名の生徒、3名の先生方が、毎週45分、計8週の課外活動に参加しました。ゲーム設計担当のソニー社員やソニー音楽財団が派遣した音楽家も参加して作品の発表会も実施しました。「楽器は何百年もかけて、大きな音を出すために工夫された科学探求の成果」という事実を、ピアノやマリンバの実演を交えて説明、子どもたちの「科学する心」に刺激を与えました。先生方からは「授業に役立つ知見が多く得られた」という声が寄せられました。

【公3】 科学教育を中心とした教員の質的向上を目指す研究・研修等諸活動を支援する事業

1. 幼児教育

（1）保育者会員組織の拡充

2020年6月に発足させた保育者の個人会員組織「乳幼児のための科学する心ネットワーク」は、2022年度4月に654名だった会員数が、年度末の3月には847名となりました。口コミなどから入会する先生も多く、本報告の時点では900名を超える勢いで拡大しています。毎月発行する会員向けメールマガジンでは保育界の著名な専門家

による「科学する心」のコラムや、すぐに保育に実践できる事例紹介、会員限定のオンラインセミナー開催、入選園で行う研修会情報などの発信を充実させてきました。また、会員限定の SNS (Facebook) では、事務局が関与せずとも、会員同士で活発な交流が行われるようになっていきます。

今後さまざまな会員特典や研修会を行い、保育者同士のつながりと「科学する心」の学び合いを深め、将来的には論文執筆にチャレンジする先生・園が増えるように働きかけていく予定です。

（２）保育者の自主的な学び合いの場への助成「科学する心を育てるサークル」発足

これまで、論文説明会、実践発表会、オンラインセミナーなど、財団から保育者に対してさまざまな学びの場を提供してきましたが、2022 年度は新たに、「科学する心を育てる」保育に賛同するネットワーク会員同士が、その興味・関心のもとに、自らテーマを決め、自主的に学び合う「公認サークル」制度を開始しました。公認サークルには、活動奨励金として、年間上限 5 万円を助成します。

本サークルの目的は、保育者が自園以外にも仲間を作り、「科学する心」の保育の学びと、保育の楽しさを深めていくこととしていますが、もう一方で、保育者が自らサークルを企画・運営することで、失敗や成功を繰り返しながら、リーダーシップや人を巻き込んで活動する力を付けて欲しいという願いもあります。6 月にサークルリーダーを募集し、審査を通過した 9 名はネットワークを通じて広くメンバーを集め、主にオンラインでの交流を通じた活動をおこなっています。2023 年度には、サークルの成果を発表する「夏フェス」をソニー本社にて開催する予定です。

■ 公認「科学する心を育てるサークル」サークル紹介ページ

<https://www.sony-ef.or.jp/kagakukokoronet/circle.html>

（３）財団初！外部保育研修団体とのコラボレーション企画

「やってみよう！持続可能な社会につながる“科学する心”の保育実践」

2022 年度の新たな事業として、未来志向の保育実践ゼミナール「やってみよう！持続可能な社会につながる“科学する心”の保育実践」を実施しました。本ゼミナールは、保育者のためのエコカレッジとして、さまざまな活動を展開している「ぐうたら村」（山梨県）との協同開講です。ソニー教育財団が他の保育団体とコラボレーションを行うのは、今回が初めてとなりました。

地球に暮らす私たちにとってこれから求められる未来の保育とは何か、その中で未来を生きる子どもたちの「科学する心」をどのように育てていくのかについてじっくりと考えることをテーマとしています。全 4 回の開催で、約 9 か月間、保育者が自ら課題を抽出して園に持ち帰り、実践したことを持ち寄りながら深めていく「往還型」形式で、メンバーはネットワーク会員からの募集・選考で選ばれた 12 名、参加費は無料。保育実践論文の審査委員である大豆生田啓友先生とぐうたら村共同代表である小西貴士先生が講師を務め、8 月には「ぐうたら村」の大自然の中で 1 泊 2 日の宿泊体験も行いました。

12 名の先生は、経験年数も年齢もさまざまではありましたが、助け合い、支え合いながら活動し、2 月には実践の成果を最終発表という形で述べていただきました。本ゼミナールを通じて、保育者として問題意識を持ち、仲間を巻き込んだ新たな実践や、園を超えた自主的な活動にチャレンジする先生も出てきています。

2. 子ども科学教育

ソニー科学教育研究会（SSTA）への支援

財団理念に賛同した教員の任意団体組織「ソニー科学教育研究会（SSTA）」への活動支援を行っています。2022 年度も SSTA の「科学が好きな子どもを育てる」教育の研究を深める活動に以下の助成をしました。

（１）トップリーダー研修会

将来子どもたちが活躍する未来社会を想定し、そのために今、必要な教育を考え、実践に移すことを求める教育界のリーダー養成を目指す新たな研修会です。2021 年 6 月に開講し、12 名の教員が 4 チームに分かれ、さまざまな有識者の講演や勉強会を通じて未来社会への見識を広め、高い視点をもってこれからの教育を議論しました。そして 2022 年 12 月に教育関係者 30 名を招いて成果発表会を開催しました。

従来にない研修の形態であり、参加した研修員の意識が大いに変わり、成果発表会以降も教育の変革に向けてチーム活動を継続し、教育関係者からもソニーならではの素晴らしい研修会と高く評価をいただきました。

(2) エリア研修会

SSTA の授業研究の最上位の活動で、全国を6つのエリアに分けて、オンライン形式での発表・意見交換を中心に都道府県を超えた先生方の交流により研究を深める、大規模でオリジナルの研修会です。

「科学が好きな子どもを育てる」と「問題解決学習」を共通テーマにして2021年後半よりスタートをし、2022年7月から8月にかけて6エリアそれぞれで成果を報告するイベントを行いました。他地域の先生と大きなテーマで議論を進めることにより、新たなつながりと深い学びが生まれています。

(3) 支部研修会

SSTA 傘下にある47支部が独自に行う支部研修会への支援もしています。本研修会は各支部の活動活性化（強化）を第一の目的とし、新規会員の獲得（とくに若手教員）に重きを置いて、SSTAの魅力を訴求、支部メンバー同士がつながり、高め合う場として、各支部が創意工夫して行っている研修会です。また、会員が少なく、活動の余力がもてない支部については周辺支部との合同研修会（クロス研修会）として開催できる仕組みを整え、支部同士でも援助し合い、全体のレベルアップを図っていきます。各支部では主に理科の授業において、子どもたちが好奇心を高め、学びを深めることができる授業の研究を中心に様々な活動を行いました。

以 上